

2017年2月6日

朝礼の話 (2017年2月)

皆さんお早うございます。新しい年が明けて一月が経ちました。先週3日の節分、4日の立春が過ぎて、暦の上では一足早く春の季節となりました。このところ寒気は若干緩んだ気配がありますが、今週から寒気が戻るといわれています。これから春に向かって寒暖の差が激しい気候が続きます。体調管理には充分気を配るようにしましょう。

先月20日、ドナルド・トランプ氏が米国第45代大統領に就任しました。ちょうど8年前の今月の朝礼の話として、バラク・オバマ氏の第44代大統領就任式とその就任演説について話しました。当時は、前年9月にリーマン・ショックが起り、50年或いは100年に一度と言われる経済危機の最中にありました。オバマ前大統領の就任演説は、「We (我々)」や「Responsibility (責任)」という言葉を使って、国民一人ひとりが責任を果たさなければ国の再生はないと厳粛に訴えるものでした。「求められるのは新しい責任の時代だ。米国民の一人ひとりが個人、国家、世界に対して義務を負うという認識だ。いやいや請け負う義務ではなく、喜んでつかむ義務だ。」米国の再生に向けて国民一人ひとりの自覚と行動を強調し、新しい大統領（新政権）への過大な期待を抑え、厳しい現実と共に立ち向かおうと呼びかけました。一方、トランプ氏の就任演説は、全く異なるものとなりました。就任式が単なる政権の交代を意味するものではなく、ワシントンの限られた政治家から国民に権力を取り戻し、国民が再び国の支配者になると言明しました。「我国の忘れられた男たち、女たちは、もう二度と忘れられることはない。誰もがあなたがたに耳を傾けている。」繁栄に取り残されてきた人々、無視されてきた人々の怒りを代弁し、彼らの本音を叫ぶことで、大統領の座を射止めました。就任演説でも明確に彼らの期待や支援に応えたものでした。「この日を境にして、我国は新しいビジョンで治められることになる。それは、アメリカファースト。」「貿易、税金、移民、外交についての全ての決定は、アメリカの労働者と家族にとって有利なものでなければならない。我々の生産物をつくり、我々の企業を盗み、我々の職を奪う他国からの破壊行為から私たちの国境を護らなければならない。保護こそが偉大なる繁栄と強さを導くのだ。」「我々は二つの単純な原則に従う。: **Buy American and Hire American** (アメリカのものを買え。アメリカ人を雇え)」と訴えました。過激なイスラム主義テロの撲滅には触れましたが、核軍縮、難民問題、地球温暖化問題といった国際的な課題についてはほとんど言及しませんでした。トランプ氏の就任演説は、内向きな「米国第一主義」、「孤立主義」、「保護主義」に偏ったものであり、「実利」と「単独行動主義」に重きをおいたものといえます。今月10日に、安倍首相とトランプ大統領との首脳会談がワシントンで行われます。日米安保体制のみならず外交、通商、文化などあらゆる面で日米の強固な同盟関係を再確認するとともに、安倍首相には、トランプ大統領に「自由貿易こそ日米双方のみならず世界の利益を最終的には最大化できる」ということを粘り強く、具体例を挙げて説いてもらいたいものです。

以上